



新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

日頃は当コミュニティ会議の運営にご協力いただきまして厚く御礼申し上げます。首都圏で令和2年1月16日に発生した新型コロナウイルス感染症による拡大防止の為、4月の定期総会も書面議決をお願いし決定していただくなど、暗雲漂うスタートとなりました。当初は現在のような感染拡大は想像すら出来なかった事から、皆様のご協力を得ながら計画された事業を進めておりました。しかし、全国で月を追う毎に感染拡大に歯止めが掛からず、岩手県では令和2年7月29日に感染者の第1号が発生したとの発表があり、生活様式や施設の利用に制限が掛かり、当コミュニティで計画した本年度の事業の一部が実施できない等、多大な影響が発生を致しました。そのため実施出来なかった代わりに事業を推進すべく、令和2年10月27日に役員会議を開催し、交付金事業補正予算の決定をいただき、現在事業は順調に進んでおります。

そんな中、IBC 岩手放送のわが町バンザイの取材が谷内振興センターに来ました。令和2年11月12日(木)午前10時30分頃に突然の訪問との事でしたが、事務職員の方々の対応は素晴らしいもので、しっかりと答えていました。放送は12月9日(水)午後7時からでした。

その他、谷内振興センターの利用人数が12月現在、対前同月比で53%の利用率となり又、体育館も35%の利用率にとどまるなど、コミュニティ会議の事業縮小や利用者の自粛による減少など、コロナの影響が身近に感じられるものとなっています。しかしながら、コミュニティ会議の事業が補正後とはいえ順調に進んでいる事は、地域の皆様のご協力の賜と深く感謝申し上げます。次第でございます。

今後も今までと同様に皆様からご意見をいただき、みんなのコミュニティ会議である事を念頭に事業を進めて参りますので、更なるご協力をお願い申し上げます。コロナウイルスが猛威を奮っていますが、絶対に負けない対策をとり、令和3年が皆様にとりまして幸多き年となりますことを心からお祈りし、新年のご挨拶と致します。

東和東部地区コミュニティ会議 会長 小原 宏

谷内振興センター・谷内地区社会体育館の施設使用について

当面の間、施設の利用制限を「レベル3」で運用します。

11月21日から12月31日までの間、市関連施設の利用制限を「レベル3」で運用するとお知らせしておりましたが、感染拡大防止の観点から利用制限期間を当面の間延長することが決定されました。施設利用の際は、3密を避ける、利用者全員の体調の確認(発熱・風邪症状がある人を参加させない)、マスクの着用(スポーツ時は除く)、手洗い・消毒の徹底、換気、ゴミの持ち帰りなど、使用者の責任において感染防止に努めてください。

	谷内振興センター	谷内地区社会体育館
対象者	市民・市内の団体のみ	
開館日	平日のみ	通常通り
開館時間	9:00~17:00	8:30~21:00
利用人数	対人距離2m 最低1m 50名まで ※各室の広さにより制限あり	対人距離2m 最低1m 50名まで
利用時間	2時間以内	通常通り
飲食・調理	飲食・調理不可	飲食は水分補給・弁当のみ可
その他	管理者が必要と認める場合は休館	

各専門部長より事業のふりかえり

明けましておめでとうございます。

昨年はコロナで始まりコロナで終わりましたが、大変な疫病の早期終息を待ち望みながらも、生き方、暮らし方について強く考えさせられた一年でありました。さて、谷内振興センターは平成18年に「ちいさな市役所」として開設されて以来、「住民が住みよい地域」づくりを目指して活動して参りました。現在、各行政区は、少子高齢化、世帯と人口減少等、多くの課題を抱えておりますが、悲観的になることなく、それらに危機感を持ちながら、解決策を探ることが肝要だと思います。そのためには、今まで以上に話し合い、協力し合って「この集落に住んで良かった」と思えるように、自治会活動を更に活発にしていくよう心掛けて参ります。集落自治において谷内振興センターは、あらゆる分野で、活動支援や課題解決の場となっており、今やかけがえのない「大きな市役所」の役目を担っております。本年も、谷内振興センターを核とし、生き甲斐を実感できる地域づくりに、微力ながら貢献して参りますので、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

総務企画部長 平野寛一

新年、明けましてお目出度う御座います。

さて、昨年は新型コロナ感染拡大により、主な行事がすべからく中止と為りました。

最大のイベント、晴谷コミュニティまつりの中止で皆様との交流の機会がなくなり、非常に残念で為りません。

今年はコロナウイルス退散を願い良い年で在りますよう皆様で手を取り頑張りましょう。

建設産業部長 下林育男

謹賀新年

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナに始まり、結局新型コロナに終始した1年でありました。未だに、終息の兆しの考えられない所であります。本年も又、どんな推移がみられるのでしょうか、私共コミュニティの運営にかかわるものにとりましては、総会の開催もままならず、各種行事の実行さえも覚束ない。等々皆様へのご迷惑はご承知のところでありました。まずは、皆さま各位、意識して災いを乗り越え正常なる社会を取り戻し、正常なる活動ができることが第一義であります。皆様方のご自愛を求めるものであります。さて、本題、当方生活環境部会の役目としては、交通安全対策、防犯灯整備、バス停整備、ゴミ集積所整備等々の事業を行っております。同様の未整備物件等、貴地区の委員を通して申し出て頂ければ幸いです。

生活環境部長 横手忠和

歴史・文化の薫る生涯現役の地域づくり

今年度は自治組織（自治会、公民館、農家組合等）や教育・スポーツ団体、文化・伝承芸能団体等と連携し、活動や行事の助成、援助を通して地域間の交流を深める活動を企画、計画しました。しかし、年度初めよりの「新型コロナウイルス」感染防止対策に伴う会議や集会、集合研修の自粛要請や感染予防の体制が充分に取れない事などから、事業の集会規模の縮小や中止、延期を余儀なくされました。特に残念なのは晴谷まつり（第14回）が中止となり、伝承芸能発表中止、生涯学習の研修や交流スポーツ大会（グラウンドゴルフ）等も規模の縮小、晴谷芸術祭・教育振興運動の発表の場が無くなってしまったことです。新年に向けて新しい企画や事業・行事の見直し等を考えたいと思います。関係の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

教育振興部長 金澤 徹

新年明けましておめでとうございます。私が小学生の頃は、日本のチベット岩手県、スズラン給食など日本で一番貧しいところと思っておりました。親も生活が苦しいのか良いことは一つも話しませんでした。花巻農業高校の同級生たちからは山から来たと言われました。

あれから25年ほど経過した、平成2年から神奈川県川崎市の小学生たちが東和町にホームステイに来るようになりました。東和町の印象はと尋ねると、信号が少ない、空気がきれい、通勤時間が短いなど引率者の先生から素晴らしいところに暮らしていると言われました。現在、コロナウイルスの感染症で大都市など非常な事態となっており岩手県も安心できない状況です。また、農業も厳しい状況ですが農業法人を組織し頑張っております。みんな、知恵を出し合い、この苦難を乗り越え、住みやすい地域をつくり、我が郷土に自信を持ちましょう。

保健福祉部長 菅 金夫

東和東部地区の人口（令和2年12月末現在）

行政区	世帯数	男(人)	女(人)	計(人)	11月末比較
土沢第6	270	236	303	539	3人減
谷内第1	145	192	220	412	3人減
谷内第2	147	213	219	432	2人減
谷内第3	70	86	91	177	1人減
谷内第4	104	174	160	334	3人減
計	736	901	993	1,894	12人減

※花巻市住民登録人口集計表を基に作成しています